

令和6年度 “社会を明るくする運動”可児地区作文コンテスト

中学生の部

可児保護区保護司会 会長賞

「明日も、花を咲かせよう！」

可児市立中部中小学校 2年

細川 航希

僕たちは、日本に生きる社会の一員です。毎日、当たり前の日常生活を送っていくためには、社会に生きる一人一人の働きが必要です。

僕は、「明るい社会」とは、一人一人の個性や考えを認め合い、誰もが安心して過ごせる社会。そして、そんな社会という組織の中で生きていることに感謝し、この瞬間も、明日も、笑顔で過ごすことだと思います。

けれど、人は誰でも、平穏で心豊かに過ごせるときばかりではありません。何か困難なことがあったり、やらねばならないことが山ほどあったりすると、やり切るのが大変で笑顔が消えてしまいます。

また、今の社会は様々な分野で難しい問題を抱えており、みんなが力を合わせて行動をしないと解決できないことがたくさんあります。

僕も仲間も笑顔になって社会に出て人生を生きるためには、身の周りにいる大人や、学校の仲間同士で気持ちを一つにして、地域の活動や社会活動に参加し、求められていることを積極的に行うということが大切だと思います。

僕は、小学校に入学してから中学校に入学する前まで、地域の花いっぱい運動と祭りに参加していました。地域の方々に、温かく迎えてもらい、一緒に過ごすのが楽しみでした。だけど、中学校に上がったころから、やらねばいけないことが多くて、あまり地域奉仕活動やボランティアに参加できませんでした。

中学二年生になった四月、久しぶりに自分が住んでいる地域の公民館の活動に参加しました。朝早く起きて、体力を使う活動に参加するのは少し大変だなと思ったけれど、久々に地域の活動に参加してみると、たくさんの人が朝早くから準備をして、迎え入れてくださいました。

それから、みんなで草をとって、花を植えました。花を植えると、これまで伸び放題だった雑草がきれいに抜け、美しい花が並び、気持ちまで明るくなりました。

終わった時、地域の人から「ありがとう。」と言われ、清々しい気持ちになりました。

僕は、絶対にやらないといけない仕事や物事には積極的に取り組んでいます。それ以外の仕事やボランティアは、進んでやってみようという気持ちが、今まであまりありませんでした。

しかし、今回、ボランティアという意味で地域活動に参加してみると、参加した人だけにしかわからない喜びを感じ、周りの人々の笑顔を見ることができました。地域の人に、「ありがとう、また次回もお願いします。」

と言ってもらった時は、地域社会にこうけんできたという気持ちが強くわいてきました。

この経験があり、明るく楽しい社会を創り上げるためには、自分自身がやりたくないと思うことにも、一パーセントでも意欲を持って、進んで参加してみることが大切だと思いました。

さらに、地域が美しい景観になり、みんなの笑顔が広がる活動には、力を出して、その力を惜しまず、進んで参加してみることが大切だと気づきました。

社会を明るくするためには、社会で過ごしていく上での善いこと（環境が良くなること、みんなの笑顔が広がること。「ありがとう」「うれしい」と思えることが当たり前になっていくこと）を積極的に行っていくことが大切だと思います。

僕は、仲間にも呼びかけ、一人でも多くの人が善いことに取り組もうとする社会にしていきたいです。互いの気持ちを認め合って、出来る人がきっちり行うことを大事にしていきたいと思います。

そうすると、きっと温かく、明るい心が芽生えると思います。

今日咲いた花は、明日も必ず咲かせられるぞと、一人一人が感じることのできる社会。

笑顔で、社会に生きる人々と仲良く過ごすために、「ありがとう」という感謝の心も忘れず持ち、仲間と明るく過ごすことが、社会を明るくするための大事なことだと思います。